

2025年度後期「企画に対する学生評価」

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- | | |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強く思う | (非常に良い) |
| ④ やや思う | (良い) |
| ③ どちらとも言えない | (普通) |
| ② あまり思わない | (あまり良くない) |
| ① 全く思わない | (良くない) |

科目名：基礎看護学実習Ⅱ（看護過程と看護実践）

（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：58 配付数：54 回収数：50 回収率：92.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	3.9	4.4	4.0	4.5	4.3	4.1	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4

*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ（看護過程と看護実践）担当教員

回収率が高く、学生の皆さんの協力に感謝いたします。指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた評価が4.5でした。一方、指導教員と実習指導者の連携の評価が3.9でした。実習前に各実習病棟の看護師長および実習指導者と担当教員が打ち合わせを行い、実習開始後も患者の状況と学生の学習状況を共有し指導にあたりました。次年度は、さらに看護スタッフとも連携をとり、よりよい実習にしていきたいと思っております。

科目名：成人看護学実習 I（急性期）

（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：58 配付数：57 回収数：46 回収率：80.7%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4	4.1	4.3	4.4	4.1	4.3

*評価に対するコメント

成人看護学実習 I（急性期）担当教員

全ての評価項目が「4.0」以上であり、問12の「この実習は全体として満足できるものであった」も「4.3」であったことから、学生は成人看護学実習 I に意欲的に取り組み、実習企画に対する満足度も高かったとの評価ができる。また、昨年度は半数以下だった回収率も今年度は80.7%と向上した。今後もよりよい実習とするために引き続き学生評価への協力を呼びかけていこうと考える。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（外来）

（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：58 配付数：58 回収数：35 回収率：60.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.6	4.4	4.6	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.5

*評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅱ（外来）担当教員

問3の「実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた」は、「4.4」で、それ以外の項目はすべて「4.5」「4.6」と高く、問12も「4.5」であったことから、学生の成人看護学実習Ⅱの企画に対する満足度は非常に高かったと評価ができる。ただ、回収率が60.3%であったことから、次年度は実習開始時と終了時に学生評価への協力を呼びかけていこうと考える。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（慢性期）

（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：58 配付数：58 回収数：35 回収率：60.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.5	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.4	4.5

*評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅲ（慢性期）担当教員

多くの学生が担当患者と真摯に向き合い、実習に真剣に取り組んでいました。授業評価は全て4.4以上であり、学生にとって満足度の高い実習となったと評価しています。授業評価では改善点についての記載はありませんでしたが、実習中に記録様式に対する意見が聞かれましたので、学生がより取り組みやすい記録様式となるよう検討していきます。

科目名：母性看護学実習

(看護学科第3学年後期／必修)

履修者数：58 配付数：58 回収数：40 回収率：69.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.6	4.5	3.3	4.5	4.6	4.4	4.3	4.6	4.6	4.3	4.3

*評価に対するコメント

母性看護学実習担当教員

評価は4.0以上がほとんどであった。実習満足度の評価は4.3であり、実習企画は概ね良好であったと考える。空き時間を利用し技術練習を行う学生が多く、実習初日からの積極的な看護実践につながったと考える。記録の量に関する評価が3.3であった。記録物の優先順など教員と相談して進め、実習中の記録物に対する負担感を軽減するよう関わるなど、よりよい実習のために検討していく。

科目名：精神看護学実習

(看護学科第3学年後期／必修)

履修者数：58 配付数：58 回収数：41 回収率：70.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	3.7	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2	4.2

*評価に対するコメント

精神看護学実習担当教員

全体の満足度は4.2であり、昨年度と比較して0.4ポイント低下しました。自由記載からは、実習指導者との関係性や病棟実習における学びについて、学生の満足度が非常に高いことがうかがえました。一方で、感染症の影響により実習の進め方に学生間で差が生じ、臨床側との十分な情報共有や連携が図れなかった点が課題として挙げられます。これらの要因が、全体評価の低下に影響したと考えます。「記録・提出物の量」(問4)および「安全と事故防止」(問10)はいずれも4.4であり、実習運営および安全面に関する教員側の配慮については、概ね評価されました。来年度は、学生が看護実践により集中できる環境づくりを最優先に考え、臨床との連携の可視化および情報共有手順の改善に取り組んでいきます。